

Where are you from? (ふるさとはどこですか?)

—— 留学生のふるさとをさがせ! ——

佐賀県上峰町立上峰小学校 富永英美

1. 身近なところに外国がある

私たちの身近なところに意外と数多くの外国が見つかる。食べ物、自動車、電化製品、文化、生活習慣、そして、人などさまざまである。人口が1万人に満たないこの町でも、外国とのつながりを調べるのにさほど苦労は感じない。さらに、インターネットという手段を使えば、学校にいながら世界と通じ合うこともできる。このように、国際理解の窓口は私たちの身近なところに存在している。しかし、実態をみると子どもたちが考える外国はかなり「遠い」ところにあるようだ。

そこで、この学習を通して、「この国ではいったいどんな生活をしているのだろう」「日本と似ていることはなんだろう」「日本との違いはなんだろう」「日本とどんなつながりがあるのだろう」などのさまざまな疑問をエネルギーに、生き生きと学習に取り組みせたいと考えた。

2. クイズに挑戦!

子どもたちに、この学習の入り口として「4人の留学生のふるさとをさがせ」という内容のクイズに挑戦させてみた。クイズの内容は、提示された写真がどこの国のようすを表すものを当てるもので、地図帳の資料や地図、ヒントカードなどをたよりに問題を解いていくものである。提示した国が複数ということもあって、一人一人で考えさせるよりもグループの方が都合がよいと考え、生活班での競争の形をとった。

ヒントコーナー1	写真コーナー *写真は、上海、シドニー、ニューヨーク、ソウル	
地図帳 ヒントコーナー	地図帳 ヒントコーナー	解答 提出
ヒントコーナー2	ヒントコーナー3	

3. 活動は楽しく (パソコン室での実践)

ここで、学習の流れをおおまかに示してみたい。

QA写真「上海」

ヒント1：国土は広く日本の25倍の広さで、国の西にタクラマカン砂漠

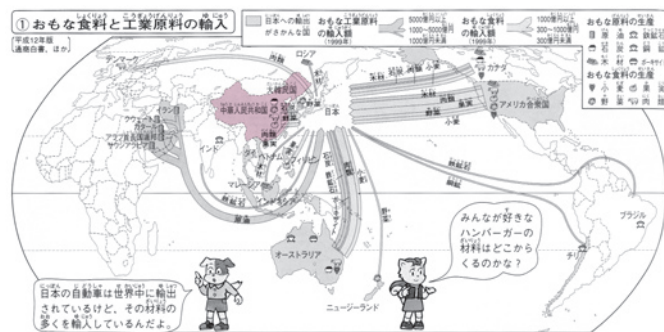
ヒント2：この国からのおもな食料輸入品は野菜、肉類、果実

ヒント3：首都はペキン、国旗は→



地図帳ヒント：日本と近隣諸国とアジア(p.47~48)、おもな食料と工業原料の輸入(p.57)、世界の国々(p.68~70)

上のように、一つの国について三つのヒントを与えておく。ヒント1から3へと次第にやさしくなっている。地図帳はヒントに関係する資料を拡大して配置する。子どもたちは写真を見た後ヒントコーナーや地図で確かめながら解答へとむかう。クイズを解くまでの経過時間とヒントコーナーの使い方がポイントにつながるので、ヒントコーナーをできるだけ使わずに解答することができれば高得点に結びつく。



(地図帳ヒント) 帝国書院『小学生の地図帳(最新版)』p.57より

4. 地図を身近なものとして

この学習では、答えを出すのに迷うグループもいたが、ヒント3がすべて首都名と国旗になっていたので、最後は確信をもって答えを書いていた。朝の時間を使って、地名や国名、首都、都市探しを継続してきたおかげだと思っている。外国も、地図ではこんなに身近になることを実感した。